

事業名	動物愛護管理指導費	財務コード (事業)	088411
-----	-----------	---------------	--------

細事業名	動物愛護管理事業費
------	-----------

担当部課室	福祉保健 部 衛生薬務 課 食品衛生・動物愛護 担当 (内線)	3457
-------	---------------------------------	------

事業の概要

実施期間	始期 15 年度 ~ 終期 年度		
実施主体	県(直営)、県(補助)		
事業の目的	誰(何)を対象に	その対象をどのような状態にして	結果、何に結びつけるのか
	県民	動物愛護の意識及び動物の健康等について理解を深める。	動物愛護の意識の高揚及び動物の健康・安全の保持
事業の内容 主に 24年度	補助事業 動物愛護週間中に動物愛護デーの開催(県と共催):平成24年9月23日、石和スコレーセンター 動物愛護デー開催内容:一日獣医師体験、犬・猫無料健康診断、長寿犬表彰、ポニー乗馬体験、動物愛護図画コンクール表彰、動物ふれあい教室等 *主催:県、獣医師会、(後援として、教育委員会、市長会、町村会)		
	補助先:(社)山梨県獣医師会 補助金額:定率1/2(上限700千円) 補助事業:動物愛護の意識の高揚と動物の健康及び安全の保持を図る事業 県(直営)事業 関東甲信越静地区狂犬病・動物愛護管理業務連絡会議(浜松市)		
根拠法令等	山梨県動物愛護管理事業費補助金交付要綱		

事業の目標、実施状況等(事業実績及び成果の達成状況)

事業の実施状況と目標の実現度	23年度	24年度		25年度	26年度	事業目標の考え方
	実績値	目標値	実績値	見込値	目標値	
活動指標 ・動物愛護デーの開催 ・図画コンクール依頼小学校	・1回 ・194校	・1回 ・187校	・1回 ・187校	・1回 ・181校	・1回 全小学校	活動指標 目標設定の考え方 動物愛護週間に動物愛護デーを1回開催し、全小学校へ図画コンクール実施案内する。 データの出典等 予算見積書
	活動指標達成率(実績値/目標値)	%				
成果指標 ・動物愛護デー参加者 ・図画コンクール応募数	・960名 ・1,735点	・1,136名 ・1,934点	・1,420名 ・1,556点	・1,243名 ・1,803点	・1,207名 ・1,698点	成果指標 目標設定の考え方 過去の3年間の実績(平均)から参加者及び応募点数を算出する。 データの出典等 実績報告
	成果指標達成率(実績値/目標値)	%				
決算額、予算額	463	563		802	713	成果指標によらない成果
(千円) うち一財額	463	563		802	713	
所要時間(直接分)	33 時間	33 時間		33 時間	33 時間	
所要時間(間接分)	10 時間	10 時間		10 時間	10 時間	
所要時間計	43 時間	43 時間		43 時間	43 時間	
人件費コスト 単位:千円 (@2,050円×所要時間)	88	88		88	88	

これまでの事業の見直し・改善状況

これまで、動物愛護デー来場者やイベント出展者にアンケート調査を実施し、来年度のイベント内容に反映させてきた。平成18年度には、補助金要綱を改正し、定額補助金制度を定率補助とし、補助率1/2、上限700千円とした。

活動量と成果の判断(平成24年度の業績評価)

(1) 事業は予定された活動量を上げているか。(「活動指標の達成率」等から、事業の活動量を判断)

数値判定 H24年度 活動指標 達成率	成果に係る 一次評価	成果に係る一次評価の考え方 必ず記入すること
	b	県の補助先である山梨県獣医師会と共催で動物愛護デーを予定通り開催し、また県内の全小学校へ図画コンクールの開催を通知し、十分な活動量を上げている。

a: 予定を超えた活動量がある(120%以上)。 b: 予定どおりの活動量がある(80%以上120%未満)。 c: 予定したほど活動量がない(40%以上80%未満)。 d: 予定した活動量に著しく足りない(40%未満)。

(2) 事業は意図した成果を上げているか。(「成果指標の達成率」、「成果指標によらない成果」から事業の成果を判断)

数値判定 H24年度 成果指標 達成率	成果に係る 一次評価	成果に係る一次評価の考え方 必ず記入すること
	b	小学校数や生徒数の減少により図画コンクールの応募点数は減少したが、動物愛護デーの催しで、小学生を対象にした動物愛護図画コンクールを実施し、動物愛護について考える動機付けとなり、長寿犬表彰等により動物の愛護・管理の重要性を周知するなど、動物愛護の意識高揚の推進及び動物の健康・安全の保持に貢献しており、意図した成果はほぼ上げている。

a: 意図した成果を十分に上げている(120%以上)。 b: 意図した成果はほぼ上げている(80%以上120%未満)。 c: 意図した成果は十分ではないが、対象や方法の改善により成果の向上が見込める(40%以上80%未満)。 d: 意図した成果が十分でなく、成果を上げる方法も見あたらない(40%未満)。

見直しの必要性(平成26年度に向けた改善等の考え方)

一次評価(担当部評価結果)		
見直しの必要性	説 明	以外の 判断項目
無		

・「以外の判断項目」の欄
必要性(a.目的の達成 b.新たな課題への対応 c.対象の変化 d.ニーズの変化 e.法律・制度の改正) 官or民(f.民間等実施) 官の役割分担
(g.市町村等へ移管) 効率性(h.外部委託 i.経費節減 j.類似事業と統合・連携 k.所要時間の縮減 l.プロセスの改善) m.その他

二次評価(担当部局再評価結果) 行政評価アドバイザー会議(外部評価)での指摘事項を踏まえた担当部局による再評価

見直しの必要性	説 明	以外の 判断項目

・「以外の判断項目」の欄は、上記と同様とする。

見直しの方向(平成26年度当初予算等での対応状況)

見直しの方向	具体的な実施計画等
現行どおり	

・見直しの方向は、「廃止」「一部廃止」「終期設定」「休止」「他事業と統合」「縮小」「拡大」「実施方法等の変更」「改善済み」の中から選択し、見直しの必要性を踏まえ、具体的な実施計画等を分かりやすく記載すること。なお、見直しがない場合は、「現行どおり」と記載し、必要に応じてその理由を記載すること。